



第 25 号

R2.12.9

文責 倉迫

建学 145 年

学習後の感想

2年生

○金曜日から日曜日の間、「感染した人がいる」とメールに書いていて、「自分がかかってないよな。」と不安でした。でも、学校に行って校長先生、教頭先生、松永美和先生の話の話を聞きました。校長先生の話では、自分と置き換えて考えました。「どんな言葉をかけてあげると嬉しいかな。」と考えました。教頭先生の話では、「みんなでがんばること」の一番下の 7 番目に「傷つける言葉は言わない五福っ子」と書いてあるので、それを「頑張ろう。」と思いました。松永美和先生の話では、「デマやうわさを言わないように気を付けよう。」と思いました。不安にさせてしまうやっではない行動の合言葉は「かさでこげ」でした。感染者探しや差別偏見や感染者の個人情報や流したり原因を探ることなどは「やめよう」と思いました。これからもみんなが新型コロナウイルスに感染しないため、手洗い・うがい、距離を開けたりマスクをしたり、換気をしたり「いろいろ気を付けよう」と思いました。早くコロナが収まってほしいと思います。「コロナが収まったら、みんなで遊んでおしゃべりをして楽しむ。」という日々が早く戻ってきてほしいです。

○コロナのことを聞いて、もっと不安になったこともあったけど、合言葉の「かさでこげ」を思い出しながら、コロナになった人の悪口を言っている人に注意したいと思います。もしも私がコロナだったら、感染した人は大変だなと思いました。私がコロナになったら、家族にかからないか、友だちにかからないかいろいろ考えたいと思います。自分がデマやうわさをされたりしても、嫌だと思えます。家でもマスクをしたり、対策をした方がいいのかな、家のこともたくさん考えられました。新型コロナウイルスは、大変な病気なんだなともっと思えました。地域の人から「新型コロナウイルスの人がいるんでしょ。誰か教えて。」と言われても、「言えません。」と言いたいと思います。家に帰って、コロナはこんなに大変な病気なんだよとたくさんお話したいと思いました。コロナになった人を、たくさん、元気になるまで「がんばれ。」と応援したいです。

○学校でかかった人がいると聞き心配だけど、そのかかった人もかわいそうだ

し、何よりも自分のため友だちのために頑張っていると思います。ぼくたちもその人が早く治るように願いたいと思いました。

※よく話を聞いて、内容を理解し自分なりによく考えているなどと思います。そして、1年生から2年生へと進級し、書く力が特段に伸びていることを実感します。

3年生

- 私も五福小学校でコロナが出てびっくりしたけど、その子も病院の先生も頑張ってくれていて、差別や悪口も言わないように心がけながら、自分の体も予防しながら生活したいと改めて思いました。
- 不安をずっと持っていたり勝手に噂をして、相手を困らせたりするのはだめだと思った。感染した人が悪いわけじゃなくて、そんなことを言っている自分たちが悪いと思った。
- コロナにかかった人を探したり自分がされたいやなことをしてはいけなと最初から分かっていたけど、この勉強をしてもっと分かった気がしました。コロナになってしまった人は、悪くないということが一番わかりました。これから今勉強したことに気を付けたいと思っています。
- 差別したり「あの人でしょ。」とか、決めつけることはしない。わからないのに「近寄らないで。」とか言わず、病気が治った人に優しい言葉をかけようと思います。不安な気持ちもあるけど、それを相手にぶつけないことを気を付けたい。家族にうつってしまった場合、看病をできなくても、どうにか何かの方法で看病したいと思いました。
- 不安な気持ちは、上手に気持ちをコントロールする。医療従事者の方に感謝したい。人を傷つけて自分がつらいことから逃げようとせずに、大人の人にも相談する。冬休みもあるし、リラックスする時間も取ってみる。3密を防ぐのも大切だし、あんまり人と接触しないようにするのも大切だけど、運動をして鬼ごっこをしたりちゃんとストレスを解消する。
- 自分がうつりたくない、うつったら嫌われるなどなどが原因で、人は不安になって人を傷つけて逃げようとする。でも、それだけでは不安な気持ちには打ち勝てない。だから、傷つけないで心を落ち着かせて、誰かに相談したり自分だけの時間を作って、上手に気持ちをコントロールすると、人を傷つけないでちゃんとコロナのこともわかりあえて、地道ではあるけどもみんなのことをみんなが分かり合えて差別がなくなると思う。

※家族や友だちのことを思う優しい気持ちに溢れています。自分がどのようにして不安な気持ちを少なくするか、その対処法についても3年生がよく考えています。